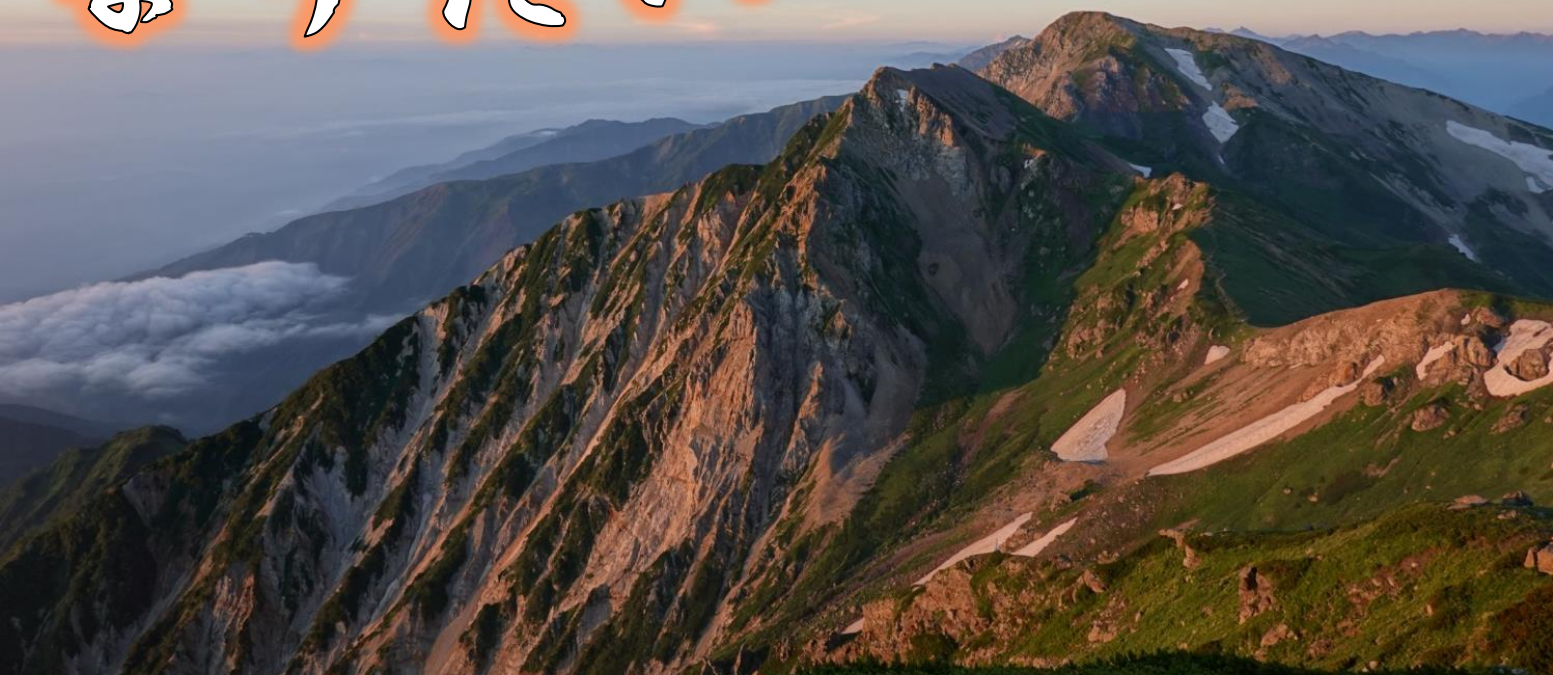




レンジャーに なりたい



R7年度入省予定

環境省総合職自然系 内定者の声



はじめに

令和7年度環境省総合職自然系「内定者の声」をご覧くださいありがとうございます。

環境省自然系職員（レンジャー）とは、国立公園の管理や、野生動植物の保護・管理、外来生物の対策など、自然環境に関連した仕事を行う国家公務員のことを指します。本冊子は令和7年度入省予定の総合職自然系内定者が、環境省を志望した経緯から内定に至るまでの体験談について内定者自身でまとめたものです。作成の目的は、多くの方に環境省自然系職員における就職活動の情報をお伝えすることです。

全ての内定者はレンジャーという仕事に対して高い志と熱意を持っています。しかし内定に至るまでのバックグラウンドは様々で、以降の頁にあるように受験科目・レンジャーとしてやりたいこと・志望動機・官庁訪問の対策等は十人十色です。

本冊子は、レンジャーを志す方だけでなく、自然環境に関わる仕事・国家公務員という職種に関心がある方々の、進路選択・試験勉強の参考になれば幸いです。

令和7年度 環境省総合職自然系 内定者一同

※こちらの情報は令和6年度のもので、令和7年度以降の国家公務員試験、官庁訪問のスケジュールは、人事院や環境省のホームページでご確認ください。

～表紙の写真～

内定者有志から集めた写真です。左上から順に

1. コマクサ/中部山岳国立公園
2. キタキツネ/知床国立公園
3. 奥入瀬溪流/十和田八幡平国立公園
4. 白馬三山/中部山岳国立公園
5. 与論島/奄美群島国立公園
6. 上高地/中部山岳国立公園

目次

➤ 基礎情報	4
➤ 内定者の概要	6
➤ 内定者からの情報	
● Aさん	7
● Bさん	11
● Cさん	15
● Dさん	18
● Eさん	21
● Fさん	24
● Gさん	27
● Hさん	30
● Iさん	34
➤ 内定者による内定者アンケート	37
➤ 受験で使った参考書・資料一覧	42
➤ おわりに	44

基礎情報

* 令和 6 年度 国家公務員総合職試験および内定までの流れ *

注意！最新の試験情報は[国家公務員採用情報 NAVI](#)にてご確認ください。

【国家公務員採用情報 NAVI : <https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken.html>】

	日程	内容	備考
国家公務員総合職試験	2023.12.25	受験案内のHP掲載開始	全日程が2023年度よりおよそ1ヶ月程度早い
	2024.2.5-2.26	申込受付期間（インターネット）	
	3.17	第1次試験日 午前：基礎能力試験（多肢選択式） 午後：専門試験（多肢選択式）	例年と午前午後の試験が逆 服装自由 翌日HPに解答掲載
	4.1	第1次試験合格者発表日	HPに第1次試験合格通知書掲載 第1次合格通知書に筆記試験の通知
	4.14	第2次試験日（筆記試験） 院卒：9:00-13:30 大卒：9:00-17:00（午後には政策論文試験）	服装自由 人物試験の日時・試験場の通知 ※政策論文試験は過去問請求可能
	院卒 4.30-5.15 大卒 4.22-5.15	第2次試験日 院卒は人物試験と政策課題討議試験 大卒は人物試験のみ	原則日時変更不可 人物試験は面接官3:受験生1で1人20分程度 政策討議試験は受験生5-6で意見発表・討議 提出物忘れないように！ スーツ着用！（クールビズ推奨）
	5.28	最終合格者発表日	HPに合格通知書掲載
官庁訪問	6.3-6.11	総合職自然系 官庁訪問予約・申込票受付期間	事前に訪問者カードを作成し、メールで提出 訪問者カードの作成は早めに！
	6.12-6.14	官庁訪問 第1クール	オンラインか対面か選択可能 1日に2～4回の面接
	6.17-6.19	官庁訪問 第2クール	対面面接 1日に3～4回の面接
	6.24	内々定解禁	内々定の通知が電話・メールできます
	10.1	内定式（採用面接）	対面で面接の後、内定式

* 環境省の仕事について *

- ・環境省には、事務系、理工系、自然系の3つの職種があります（本省採用の場合）。
- ・自然系職員（レンジャー）は主に、生物多様性の保全、国立公園の管理、野生動植物の保護・管理、外来生物の対策、施設整備など、自然環境に関連した業務に携わっています。

詳しくは[環境省自然系の採用情報](#)をご参照ください。

【自然系採用情報：https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/index.html】

* 国家公務員試験の試験区分 *

- ・総合職自然系では、大卒程度・院卒者試験ともに「森林・自然環境」「化学・生物・薬学」の2つの試験区分から採用されます。

令和7年度入省予定者9名の内訳は下の内定者概要をご参照ください。

※試験区分によって入省後の業務内容が変わることはありません。

※試験区分及び卒業区分の選択は採用の可否に全く影響しません。

- ・詳しい試験内容等については[受験案内](#)をご参照ください（年度にご注意ください）。

【受験案内一覧：<https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/jyukennannnaiichiran.html>】

* 官庁訪問 *

- ・国家公務員総合職試験に最終合格すると、受験した試験区分に対応した省庁への官庁訪問ができるようになります。官庁訪問とは各省庁でのいわゆる『採用面接』で、人物試験と同様に訪問者カードを提出したうえで面接を受けます。官庁訪問こそ志望省庁から採用されるための最後にして最大の難関と言えます。

- ・総合職の官庁訪問は、第1～第4クールの4回、およそ2週間に渡って実施されます。原則として1クールにつき1つの省庁への訪問は1回までで、通過すれば次のクールの官庁訪問に進むことができます。詳細な採用までの流れについては[こちら](#)をご参照ください。

- ・総合職自然系の官庁訪問は、第1・第2クールの2回実施されます。令和6年度の第1クールは事前予約制で、対面かWeb面接かを選択できました。第2クールは第1クール通過後に日程をメールで通知され、対面で実施されました。他の省庁等にも官庁訪問される方は、これを踏まえて事前にどの省庁をいつ訪問するかを考えておくといでしょう。総合職自然系の官庁訪問の詳細は[こちら](#)をご参照ください。

【採用までの流れ：https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sougou/saiyo_sougou02.html】

【総合職自然系官庁訪問：https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/homon-sogo.html】

内定者の概要

名前	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん	Iさん
卒業区分	院卒	大卒	院卒	院卒	院卒	院卒	院卒	大卒	大卒
試験区分	森林・自然環境							化学・生物・薬学	
大学での専攻	森林科学	海洋物理学 環境地理学	進化生態学 保全生態学	動物行動学	景観生態学	農業気象学	水圏生態化学 化学海洋学	動物生態学	保全生態学
学年	M2	M2	M2	M2	M2	M2	既卒	M2	M2
一次試験 選択科目	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	数学・物理 基礎物理化学・基礎 無機化学 物理化学・無機化学 発生生物学・生理学 遺伝学・進化学 生態学・系統分類学	生態学 発生生物学・生理学 遺伝学・進化学 生化学・分子生物学 応用微生物学・生物 工学
	造園計画 (都市公園)	森林資源科学	森林資源科学	森林資源科学	造園計画 (都市公園)	森林資源科学	森林資源科学		
	造園計画 (自然公園)	森林生物生産科学	造園計画 (自然公園)	造園計画 (自然公園)	造園計画 (自然公園)	造園計画 (自然公園)	造園計画 (自然公園)		
二次試験 選択科目	自然環境 公園緑地	森林科学	森林科学	自然環境 公園緑地	自然環境 公園緑地	森林科学	自然環境 公園緑地	遺伝学 生態学	遺伝学 生態学
併願先	民間コンサル	経済産業省 林野庁 国家一般職 シンクタンク 再エネ	林野庁 一般社団法人	なし	林野庁 環境コンサル インフラ	国土地理院 国家一般職 地方公務員 (林業職)	国家一般職	農水省 民間IT	農林水産省 国土交通省 国土地理院 自動車メーカー 交通系インフラ
ガクチカ	自然保護NPOで のインターン経験	体育会ボート部で の部活運営	研究室での野外調 査	地方環境事務所での インターン	サークルでの 合宿運営	ワンダーフォーゲ ル部での登山経 験・部活運営	海洋生物に関する 研究	ロッククライミン グでの成果と海外 遠征	大学1年生から 携わってきた研究
		漂着ごみに関する 研究の野外調査	DNA実験を行う 修士研究	ウシガエルに関する 研究	大学のプログラム での政策立案・ フィールドワーク		高等学校における 水族館運営		大学院での副専攻 (自然保護プログラ ム)

内定者からの情報

志望動機や試験対策・官庁訪問等の体験について内定者が書きました。

A さん

【最終学歴】 修士課程修了見込み
【学年/専攻分野】 修士2年 / 森林科学
【試験区分】 森林・自然環境
【試験年度】 2024
【参加した説明会、インターン等】
各種オンライン説明会
地方環境事務所インターン
OB・OG 訪問
【併願先】 民間（環境コンサル）



（1）志望動機

学部2年生の時に国立公園についての授業を受け、国立公園制度に興味を持ったことがきっかけです。私はそれまで漠然と将来は環境保全の分野で働きたいと考えていましたが、具体的にどういった職業があるのか知らず進路に迷っていました。授業を担当していた先生にその話をしたところ、国立公園に興味があるならレンジャーを目指してみてもどうかとアドバイスをいただきました。レンジャーの業務について調べたり、現役レンジャーの方に話を聞いたりするうちに、将来世代のために日本の自然を守るやりがいのある仕事だと感じ、憧れを抱くようになりました。また、実際に国立公園内でのインターンシップに参加し、国立公園は利用の面で地域を活性化する力があると学び、レンジャーとして公園管理をしながら地域振興にも貢献できることにも魅力を感じました。環境保全の分野の中でも比較的安定している職業という面でも魅力的だと思い、学部3年生の終わりごろからレンジャーを志すようになりました。

(2) 体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEIC の勉強など)

歴代の内定者の声「レンジャーになりたい」を参考にしながら、過去問と市販の問題集を使った演習を中心に勉強していました。私は学部4年生で院試が終わった後からぼちぼち公務員試験勉強を始め、修士1年の春に練習のつもりで大卒程度の試験を受け（落ちました）、修士2年の春に院卒程度の試験を受けたので、計2年ほど勉強をしていたことになります。といっても実際に真面目に取り組んでいたのは直前の1か月くらいなので、結局集中力が大事だと思います。TOEICは学部4年生の夏に受けた回のスコアが公務員試験の25点加点になる点数を超えていたのでそのまま使いました。

これまでも数々の先輩がアドバイスしていましたが、時間に余裕がある方はぜひ早めに試験を受けてみてください。官庁訪問をする年より前に試験に合格していれば、その年は官庁訪問だけに集中でき、心に余裕を持てると思います。特に院卒での採用を目指す方、余裕があるうちに試験に通っておくことを強くおすすめいたします。

● 1次試験【基礎能力試験】

得点源になる「数的推理」と「判断推理」だけの対策をしました。市販の問題集を買い、何周か解きました。正直他の分野の問題は対策しようとする範囲も広く、コストが悪いと思います。時事問題だけでも点を取れたらいいなと思い「速攻の時事」を買いましたが、内容量が多く1周もできずに本番を迎えてしまい、選んだ答えも不正解で、お金の無駄になりました。「数的推理」と「判断推理」の対策だけで本番も半分以上の点数をとれたので、他の問題はもう運で良いと思います。

● 1次試験【専門多岐選択式試験】

過去問を数年分解きました。一度問題を全て解き、答え合わせをした後、全ての選択肢の解説をノートにまとめていました。文章に間違いがある場合は正しい文に直し、知らない法律や制度がある場合は森林・林業白書やインターネットで調べてまとめました。何年分か解くと割と似たような問題が出ていることに気づき、ノートに新しく書くことは段々減っていきました。試験直前はノートでまとめたものを暗記していました。本番は割と解く時間に余裕があります。

● 2次試験【専門記述式試験】

1次試験が通ってから対策し始めました。といっても基本は1次試験対策でまとめたノートを暗記することに時間を割き、専門記述の過去問は数年分だけ解きました。怠惰だったので完全な文章を書くのではなく要素だけ書いて練習した気になっていました。その結果、やはり本番で書くのが遅く、時間が足りなくなってしまう、満足するまで書ききれなかったもので、1年分だけでもちゃんと文章を書く練習をした方がよかったかなと思います。

● 2次試験【人物試験】

同じく1次試験が通ってから面接カードを書き、先輩と一緒に公務員試験を受けている友人に添削をしてもらいました。2次試験直前にはその友人と何度も練習をしました。基本面接カードに沿ったことしか聞かれないと聞いていましたが、本番は突飛な質問が多く、用意していた回答の半分くらいしか言わなかったです。結構その場での瞬発力も必要だと思います。

● 2次試験【政策討論】

インターネットで当日どのような流れで試験が進むのか確認したくらいで、特に対策はしませんでした。本番はレジュメを作る時間がかなり短くとても焦り、また討論をするときも自分の意見をあまり積極的に話せず、評価は高くなかったと思います。対策は難しいですが、普段からゼミなどで議論をする際に積極的に発言するように心がけるとかなと思います。

● 官庁訪問

訪問者カードを作成した後、先輩や指導教員の先生に添削していただきました。先生には面接練習もしていただき、面接官が聞きたいであろうポイントなどを教えていただきました。人物試験で本番は想定していないこともたくさん聞かれると学んだので、自分が絶対に言いたいことは暗記しておき、後は当日リラックスして会話を楽しむつもりで臨みました。

官庁訪問は1日目で対面でした。自分の番を待っているときはとても緊張していましたが、会場にはOB訪問で会ったことがある職員の方もいて、想定よりリラックスして話すことができました。途中のグループディスカッションの方が他の受験者と比べられることに緊張して本領を発揮できなかった気がします。

● 内定までの過ごし方、心がけたこと

現役レンジャーの方に入省するまでに何か勉強しておいた方が良いことはありますがと聞いたところ、入省してからいくらでもできるから学生生活を存分に楽しんでほしいとのことだったので、研究をぼちぼち進めつつ、学生最後の夏休みを全力で楽しみました。夏休み明けで研究が全く進んでいない罪悪感を抱えながら内定式に出席しました。

● アドバイス、メッセージ

採用にあたってどういった点を評価いただいたのかはわかりませんが、自分が自信を持っているのはレンジャーになりたいという強い思いと、その目標に向かって行動してきたことです。国立公園の管理業務を実際に体験するためにビジターセンターや公園管理事務所でインターンをし、行政と市民団体の自然保護への関わり方の違いを学ぶために自然保護NPOでもインターンをしました。また持っているコネはフル活用し、様々

なイベントや会議に参加させていただき、環境省の先輩方に自分の名前を売ってきました。

レンジャーに少しでも興味がある方は、まずはぜひ実際に国立公園での業務を体験してみてください！インターンでもボランティアでもなんでも構いません。レンジャーは現場での仕事が重要なので、そういった働き方がご自身に合っているか判断できます。また実際に面接でも現場での経験をアピールできます！

内定までの道のりは本当に長く、忍耐と精神力が必要ですが、レンジャーになりたいという強い思いがあればなんとか乗り切れます。頑張ってください！

Bさん

【最終学歴】 修士課程修了見込み

【学年/専攻分野】 修士2年/環境地理学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2023

【参加した説明会、インターン等】

OB・OG訪問、オンライン職員訪問

本省インターン、公務研究セミナー

各種オンライン説明会

【併願先】 経済産業省、林野庁、国家一般職、シンクタンク、再生可能エネルギー



(1) 志望動機

「自然の活用による地域課題の解決」と「豊かな自然環境の継承」に貢献したいと考え、志望しました。私は、幼い頃から自然に囲まれて育ったこと・部活動中にイワシの大量死と海洋ごみ問題に直面したことをきっかけに数十年後の自然環境に対して危機感を抱き、転専攻や公共政策大学院の授業の履修、地域就労体験への参加など積極的に行動するようになりました。その中で、「環境問題の主流化」や「自然を活用した地域振興」の流れを知り、これをより幅広く、また個人の行動変容にも波及させていくためには、自然の価値を伝えていく役割が重要になると考えました。レンジャーは、地元の方々と協働しながら自然と地域の暮らし・文化などを繋ぎ合わせ、その地域の自然ならではの価値を伝える役割を担っています。私自身も、現場と本省の両方の立場からこの役割を担い、時代や地域に調和した自然共生社会の実現に貢献したいです。

(2) 体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEICの勉強など)

2023年(修士1年)に公務員試験を受験し、2024年(修士2年)に官庁訪問しました。学部での専攻が海洋物理学、大学院での専攻が環境地理学なので、森林・自然環境、林学はどちらも知識がゼロの状態からのスタートでした。その為、当初は「2023年に国家一般職試験(林学)合格、2024年に国家総合職試験(森林・自然環境)合格」を目指していましたが、結果として2023年に総合職と一般職の両方で合格することができました。

2022 年 9 月頃から試験勉強を始め、過去問や森林・林業白書、森林・林業実務必携を用いて対策を進めていきました。初めは知らない内容ばかりで、選択肢の正誤の根拠を洗い出すのにとても時間がかかっていましたが、徐々に要領を得ていきました。

総合職と一般職の双方に知識がゼロの状態から受験するのであれば、両方をカバーできる一般職試験の過去問をベースに対策を進めるのもアリなのかなと個人的には感じています。私自身、1 次試験（専門多岐選択式試験）対策では、一般職試験の過去問しか解いていませんが、総合職試験でも 7 割正解することができました。

● 1 次試験【基礎能力試験】

専門試験対策に時間を割けなかったため、基礎能力試験の中でも配点の高い数的処理と勉強しやすいような時事に絞って対策を行いました。

・ 数的処理

大学生協の公務員講座を受講していたため、その講義テキストや問題集を利用しました。9 月頃から対策を始め、年内まではテキストで基礎固め、年明けからは問題集で時間を計って解くようにしていました。

・ 時事

直前期に「速攻の時事」を 2～3 周ほど流し読みしました。総合職試験では、基礎能力試験が午後に実施されるため、昼食の際にもこのテキストを用いて最終確認していました。

・ 直前対策

本番の 1 ヶ月ほど前から、時間を計りながら過去問を解き始めました。問題を解く順番や時間配分を整理し、時間内に最後まで解き終える感覚を養うようにしていました。基礎能力試験は、とにかく時間との勝負になるので時間内に解く練習を何度かしておくことをおすすめします。

● 1 次試験【専門多岐選択式試験】

一般職試験の過去問 5 年分で対策しました。「森林・林業白書」や「森林・林業実務必携」などを参考にしながら過去問の選択肢に対して正誤解説を作成し、それを何度も復習していくうちに徐々に点数が伸びていきました。知識がゼロの状態からのスタートだったので初めはかなり苦労しましたが、3 年分解いたあたりから分かるようになっていきました。また、森林・林業白書を毎日少しずつ読み続けたこともプラスに働いたと思います。

● 2 次試験【専門記述式試験】

1 次試験合格後から対策を始め、専門多岐選択式試験からの繋がり対策しやすい「森林科学に関する基礎」を選択しました。総合職試験の過去問を 4 年分解いたほか、白書を何度も読み返し、旬なトピックについて背景から現状、課題、今後の流れまでを

ノートにまとめていました。林野庁 HP にある「森林・林業・木材産業の現状と課題」も大変参考になりました。

また、1 次試験対策で一般職試験の過去問を解いていたことも役立ちました。一般職試験の問題は、総合職試験と比べて浅く広く出題されるため、記述試験ではそこで仕入れた知識も繋ぎ合わせるような形で解答することができました。

● 2 次試験【人物試験】

1 次試験合格後から慌てて対策を始め、公務員講座とキャリアセンターで週に 1~2 回練習しました。人物試験では、面接カードの内容に沿った質問が中心となるので何回か練習すれば大きく失敗することはないと思います。ただ、かなり深掘りされる場面も一部あったので、油断せず様々な想定をしておくことをおすすめします。

私は高評価をいただくことができましたが、「カードづくりでも面接でも“結論ファースト”を意識したこと」・「感情も交えながら“会話”する意識で臨んだこと」が大きかったのではないかと思います。しかし、個人的には全く手応えがなく落ち込んで帰ったくらいなので過剰に意識し過ぎず、面接後は気にしないことが一番だと思います。

● 2 次試験【政策論文試験】

政策論文試験では、「筋の通った論理構成」と「添付資料の要点の素早い読み取り」が重要になると感じました。特に過去問などは解いていませんが、模範回答を参考に自分に合うと感じた文章構成や、どのお題にも共通する考え方などを整理して本番に臨みました。

● 官庁訪問

環境省は初日に訪問しました。2023 年度に国家公務員試験に最終合格していたので早めに準備を始めることができ、2024 年 2 月頃から官庁訪問直前まで、公務員講座とキャリアセンターを活用して週に 2 回ほど面接練習を行いました。

官庁訪問では、「自分の体験から物事を話せること」が大きな強みになりました。体験から生まれる言葉には熱意や説得力があり、自分の想いを相手にイメージしやすい形で伝えることができます。実際に、面接官の方にも「様々な現場に飛び込んできたあなただからこそ、その言葉に説得力を感じています。」とフィードバックをいただきました。私の場合、インターンシップや職員訪問の他、地域就労体験、ボランティア、公共政策大学院の他学部履修など、官庁訪問直前まで様々な機会に足を運び、現場や最前線に転がっている多様な価値観に触れることを意識していました。レンジャーの一員として向き合わなければならない課題は、どれも自分の生きてきた世界観だけでは捉えきれないものばかりだと推測します。レンジャーになること、なつてからのこと、両方から考えても学生のうちから様々な体験に飛び込み、自分の価値観を広げる素養を身に付けておくことはとても重要なのではないかと思います。

また、そうした体験を踏まえながら「自分の原体験から環境省を志望するまでの“ストーリー”を論理立てて伝えること」も併せて重要だと感じました。そのストーリーを組み立てるうえで、自分は「どのような行動をなぜ取ってきたのか」、「その中でどのような話を聞き、何を感じたのか」などを整理すると良いと思います。

● 内定までの過ごし方、心がけたこと

準備を進めていく中で不安だったり、しんどいなと感じた時には、息抜きとして国立公園に遊びに行ったり、YouTube で国立公園の動画を見るようにしていました。国立公園に伝わる自然の美しさはもちろん、そこにある暮らしや紡がれてきた想い、独特な時間の流れなど、目には見えない美しさにも思いを馳せながら活力を貰っていました。

● アドバイス、メッセージ

個人的に憧れている大先輩レンジャーから「時にはノリで飛び込み、体験を躊躇しないことが大切だ」とお話しいただいたことがあります。私自身も、特に大学院進学後から体験の重要性を強く実感しています。体験からは、人とのつながりや会話、自分自身の実感が生まれ、そこに飛び込むことでしか得られない学びの連鎖が広がっていきます。私は、大学院進学後に専攻（修了1年延期）するなど遠回りもしましたが、積極的に様々な機会に足を運び続けたこと、その中で素晴らしい出会いと学びをいただいたことが道を拓いてくれたのだと感じています。

皆さんもぜひ積極的に行動してみてください。そこにはきっと素敵な出会いと学びが待っていると思います。心の底から応援しています！

Cさん

【最終学歴】 修士課程修了見込み
【学年/専攻分野】 修士2年/生態学
【試験区分】 森林・自然環境
【試験年度】 2024
【参加した説明会、インターン等】
本省夏季インターン、各種オンライン説明会
【併願先】 林野庁、森林技術の研究・支援団体



(1) 志望動機

自然環境保全に対する人々の思いをレンジャーとして実現したいと思ったからです。私は小学4年生の時に東日本大震災を経験したことで、森林セラピーに参加する機会がありました。その時の3日間は今の私につながる原体験で、野外活動や生き物と接することを楽しめるようになりました。その影響で大学では野外調査を行う生態学研究室に所属しました。休日は地域の自然再生活動に参加し、住民の自然環境保全への積極性を知る一方で、高齢化等により希少種保全・自然再生活動が続けられない事例を見て、行政官として自然再生の推進等に取り組んでいるレンジャーを意識するようになりました。そして去年、本省インターンに参加したことで、私の野外調査の経験と、人の話に耳を傾け協働できる長所を生かして、日本の自然環境を将来に残すレンジャーの仕事に就きたいと強く思いました。

(2) 体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEICの勉強など)

人事院から取り寄せた過去問5年分と白書(森林・林業白書と環境白書)を主に使いました。1次試験の3か月半前くらいに勉強を始めてからは、可能な限り毎日過去問を解くか、白書を読むようにしました。試験勉強は久しぶりで、少しずつ点数が上がるのを楽しみながら過去問を解きました。

TOEICは約1年前から公式問題集で勉強しながら、最大加点を受けられる点数が取れるまで約5回受験しました。

● 1 次試験【基礎能力試験】

はじめに過去問を 1 年分解き、苦手だった部分（数的推理や判断推理）を市販の問題集で対策しました。その後、残りの 4 年分の過去問を解き、問題の形式に慣れて、全ての問題を時間内に解けるようにしました。

● 1 次試験【専門多岐選択式試験】

はじめに過去問を 1 年分解きました。分からない単語・内容がとても多かったので、白書（森林・林業白書と環境白書）を全部読みました。過去問や白書の重要で頻出する単語を調べ、ノートに書きだしまとめました。その後 4 年分の過去問を解き、適宜ノートにまとめました。出題傾向に慣れた状態で受験できました。

● 2 次試験【専門記述式試験】

1 次試験の勉強で覚えた内容がかなり役立ちました。過去問 5 年分解き、大学のキャリア相談の方に添削・コメントを一部依頼しました。試験時は絶対に回答に入りたい内容を箇条書きでメモすることで、簡潔で分かりやすい文章を書けるように努めました。

● 2 次試験【人物試験】

事前に面接カードを提出します。基本的にその内容に沿って質問されるので、面接カードを作り込むことはとても大事だと思います。私は友人・家族・先輩・先生から面接カードの添削をいただきました。緊張してうまく話せなくなると思ったので、口語原稿を作りおおむね暗記して本番に臨みました。

面接中は突飛なことは聞かれませんでした。うまく答えられなかったのは、研究室活動で地域の課題を感じたことがあるという話をした後に「その時あなたはどのような行動を起こして課題解決しようとしたか。」という質問です。

● 2 次試験【政策課題討議試験】

過去問が公開されていないため、ニュースや省庁の HP を定期的に見て、自分の意見を持つという方法で試験対策をしました。本番は資料に目を通しレジュメを作成するまでを 20 分で行ったのですが時間が全く足りませんでした。受験者との討論は上手にできたように思いましたが、低い評価でした。

● 官庁訪問

訪問者カードを作成した後、家族・友人・先輩・先生に見ていただき、かなり修正しました。特に最近就職活動をしていた先輩からいただいたコメントが役に立ちました。面接練習は指導教員の先生にいただきました。当日に緊張すると思ったので、想定される質問全てへの回答原稿を作っておおむね暗記しました。

1 日目に対面で官庁訪問をしました。インターンで本省に行ったことがあったので、道に迷わずに待合室まで行くことができました。待合室にいた官庁訪問者の人数が予想

より多く自分が面接通過できるか不安で、心臓の音が聞こえるくらい緊張しました。面接官の方と話しているうちにリラックスでき、落ち着いて話せるようになりました。面接官の方の顔を見て、興味を持ってもらえそうな部分を長めに説明しました。また逆質問する機会があり、自分の志望動機と関連させて環境省の業務について質問できた点は良かったかなと思っています。

面接は1日に数回あり、面接と面接の間には長めの休憩がありました。私は面接官の方から聞かれたことを振り返り、うまく答えられなかった内容を整理し回答を練り直して過ごしました。

● 内定までの過ごし方、心がけたこと

自身の研究や研究室活動をしているうちにあっという間に内定式当日になりました。夏は研究室の調査が多く、地域の方との交流も多いです。地域の方々の自然環境保全活動への取組や思いに耳を傾けることを意識して過ごしました。また内々定をいただいたことで落ち着いた気持ちで環境省 HP を見ることができ、入省後の生活を想像していました。

● アドバイス、メッセージ

公務員試験勉強を始めてから内々定まではとても長く、着実に対策し続けることが大切です。自身がレンジャーに憧れたときの初心と、レンジャーになるぞ！という強い気持ちを持って、最後まで無理せず頑張ってください。環境省が求めている人材像と自分の強み・思いが一致したとき、きっと良い結果になるはずです。

Dさん

【最終学歴】 修士卒業見込み

【学年/専攻分野】 修士2年／行動学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2024

【参加した説明会、インターン等】

1day 職場体験、OB・OG 訪問

地方環境事務所インターン、各種オンライン説明会

【併願先】 なし



(1) 志望動機

私は人と自然が共生できる社会づくりに貢献したいと思い、環境省を志望しました。人と自然が共生できている状態の指標の一つとして、田畑などの里山環境でカエルが安定的に生息していることが挙げられます。私は毎年夏休みに里山にある山荘を訪れ、カエルの大合唱を聴いていますが、年々合唱は小さくなっており、一部では消えてしまいました。この要因は、外来種の移入をはじめとする人為的な環境破壊にあります。この状況を打破するために野山で外来種駆除を実施していますが、個人の力には限界があり、社会全体としてこの問題に取り組む必要性を感じています。そこで私は、環境省業務である自然を守る制度づくりやその運営に、特に外来種対策の側面から携わりたいと考えています。この業務を通じ、毎年カエルの合唱が聞こえる社会を実現したいと思います。

(2) 体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEICの勉強など)

研究が最も忙しい時期に全ての試験があったので、両立にかなり苦労しました。研究時期が春～夏の方は計画的に勉強、対策をされることをおすすめします。

試験の半年前から試験勉強と環境省への理解を兼ねて環境白書と森林・林業白書を読んでいました。TOEICは大学院進学のときにいい点数を出せていたので、それを利用しました(有効期限5年)。勉強のスタイルとしては、過去問を解くたびに点数の推移や合格者の点数との比較を行い、あとこれくらい足りないなとかこのペースの得点推移だったら間に合いそうだなとか考えてのんびりと勉強していました。

● 1 次試験【基礎能力試験】

スーパー過去問ゼミの数的推理・判断推理、文章理解・資料解釈の中から国家公務員試験でよく出るものを中心に解いていき、その後過去問を 10 年分解きました。過去問は国家公務員試験を受けるという知人から譲っていただきました。あれがなかったらここにはいなかったと思います。過去問では時間が足りず、毎回最後まで行けなかったのが時事問題対策をしていなかったのですが、本番では最後までできてしまい、逆に困りました。ただ、時事問題以外をきちんと得点できていたのでなんとかできました。試験得点は約 7 割でした。

● 1 次試験【専門多岐選択式試験】

森林・林業白書や環境白書を一通り読んでから過去問を解いてみたのですが、思ったよりも聞かれることが細かくて全然解けず、最初の得点は 9 点でした。そこからは 10 年分の過去問を解き、その後それぞれの選択肢の正誤の理由を調べてノートを作るということをしていき、安定して 25 点前後を得点できる程度になりました。試験得点は約 7 割でした。

● 2 次試験【専門記述式試験】

研究が忙しい時期だったのと 1 次試験で十分に対策したので大丈夫だろうと思い、過去問 2 年分だけを解いて問題の傾向だけ把握し、それ以上の対策はしませんでした。ただし実際の試験得点はあまりよくなかったので、ここで油断せずに記述に慣れるくらいまで過去問を解いておいた方が安全です。試験得点は約 4 割でした。

● 2 次試験【人物試験】

人物試験はあまり評価がばらけないと聞いていたので、完全に用意をサボっていました。3 日前に面接シートの用意をはじめ、2 日前に大学の就職サポートデスクの方に面接シートをみていただき、ギリギリまで修正を加えて当日ミスだらけの面接シートを提出しました。しかもスーツを用意し忘れており、会場 50 人のうちスーツでないのは自分だけでした。流石に落ちたと思いましたがどうにか通過しました。上の通りですが、前もって必要なものや記載の確認をする余裕をもって臨んでください。評価は隠しておきます。

● 2 次試験【政策課題討議試験】

調べてもあまり情報が出てこなかったのも、特に対策はしていませんでした。自分の意見を述べたり全体の議論の方向を修正したりするのは多少得意だと自負していたので、自信をもって話をしていました。時間制限があるので、腕時計で時間を確認しながら話ができの方がいいと思います（私は腕時計もしていませんでした）。

● 官庁訪問

国家公務員試験後半の反省を踏まえ、最終合格通知が発表され次第、訪問者カードの作成に取り掛かりました。そして、ギリギリまで親や友人、就職サポートの方に助言をいただき、初日に訪問しました。

訪問では1日に3～4回ほど面接官の方とお話をするのですが、間隔が数時間ある場合もあったので、その間に前の面接の反省を書き出し、次の面接で何をいうかを整理したり、日比谷公園でリフレッシュしたりしていました。前述の志望動機は実際に訪問者カードに記載したものです。また、面接官の方から話が狭いのご指摘を受けたので、その後は政策などと絡めて国際的な話に持っていくなどして広げて見たところ、受けが良くなったように感じました。訪問者カードの時点で環境省のさまざまな活動に携わっていきたい旨を強調することをおすすめします。

ところで訪問するまで把握できていなかったのですが、例年環境省自然系は1クール目に事前予約の上で訪問し、通過したら2クール目に呼ばれるシステムとなります。内々定解禁日には電話およびメールで内々定のお知らせがきますので、訪問の必要はありません。この案内は内定者の声や環境省HPにあったのですが、見落とすかもしれないので、念の為にここに明記しておきます（ただしこれは”例年”の話なので、試験年度の官庁訪問のスケジュールや環境省HPを確認するようにしてください）。

● 内定までの過ごし方、心がけたこと

行政職は法律に規定された、法律を運用する仕事です。このため、私自身も法律をきちんと知ってそれに従えるようにしようと思い、身近な法律を見直しました。特に道路交通法は身近な割に詳細はあまり知らなかったため、自転車乗車時の法律をきちんと守って過ごすようにしていました。最初の方は面倒だったり意味がないと思ったりしましたが、今では自然とできるようになり、なんとなく正しい行いをしている自分に自信がもてている気がします。

● アドバイス、メッセージ

前述の通り国家公務員試験では1次試験だけ全力で、その後はかなりサボっていました。その結果、不安や焦りに悩まされることとなりました。皆様は1次試験を突破してもまだ最終合格ではないということを肝に銘じ、最後まで油断されないようにとお伝えしておきたいです。

ちなみに国家公務員試験の席次は合格者の中で53%と中の下でしたが、なんとかなりました。採用時に席次は関係ないと言われていますが、実際中の下でも通過できましたという実例報告です。

E さん

【最終学歴】 修士修了見込み
【学年/専攻分野】 修士2年/景観生態学
【試験区分】 森林・自然環境
【試験年度】 2024
【参加した説明会、インターン等】
本省インターンシップ、自然系 web 説明会
MOE トーク(本省)
【併願先】 林野庁、国家一般職
建設コンサル(環境部門)、インフラ



(1) 志望動機

私は主に以下の3点から環境省を志望しました。

- ①業務領域が非常に幅広く、自然環境に対して多様なアプローチができること
- ②本省での制度設計、意思決定と現場での体制構築の両方に携われること
- ③スペシャリストよりゼネラリスト的な働き方が自分に合っていると思ったこと

官庁訪問で提出する訪問者カードには、大学での学びを通して環境省の「保全と利用の好循環」の考え方に共感したことや、②の動機として大学で多様なフィールドワークに参加して感じたことなどを記載しました。

(2) 体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEICの勉強など)

修士1年の9月に本省インターンシップに参加したことをきっかけに環境省を志望し、公務員試験について調べ始めると同時に、11月頃からは並行して民間就活にも取り組んでいました。英語加点の制度を知るのが遅く、年明けに慌ててTOEICを受験することになり、本格的に試験勉強を始めたのはその後でした。専門試験の内容の一部を大学で学んでいたことなど多少のアドバンテージがあったため何とかりましたが、結果論でしかないのではととにかく早め早めの対策をおすすめします。

勉強スタイルについては、大学院の同じ専攻に総合職志望の友人が何人かいたため時々集まって情報交換をしていましたが、それ以外は基本的に一人で勉強してしまし

た。また、身近に総合職試験を受験した先輩がいたため直接アドバイスをいただけたことも心強かったです。

● 1次試験【基礎能力試験】

基礎能力試験は配点比率が他と比べてやや低いため極端な高得点を狙う必要性をあまり感じず、新規に学ぶ内容が多く2次試験にも繋がる専門試験の対策を優先したため、試験の1週間前になってようやく過去問に取り掛かりました。全30題のうち知能分野(文章理解、判断・数的推理)が8割を占めるため専ら知能分野のみを対策し、知識分野(時事、情報)は問題数が少ないので「当日問題を見て解けたらラッキー」くらいの心積もりで臨みました。

● 1次試験【専門多岐選択式試験】

試験の1ヶ月半ほど前から過去問を5年分解き、間違えた問題や知らなかった事柄について白書やホームページを参照しながら自分なりの詳細な解説を作成しました。また、試験直前には特に頻出の内容について改めて体系的に整理し、内容を頭に叩き込みました。大学院入試の際に自然環境・公園に関する専門用語や概念を一通り勉強していたことも役に立ちました。

● 2次試験【専門記述式試験】

1次試験の専門試験と重なる部分が多いため、数年分の過去問を見て自分ならどう書くかを頭の中で組み立てた以外は特に対策はしませんでした。長い文章を手書きすることに慣れておくことは有効だと思いました。

● 2次試験【人物試験】

面接カードは知人や先輩に添削をお願いして推敲しましたが、少し内容を詰め込みすぎたかなと思います。完成・印刷が試験当日になってしまったことも反省点です。面接自体には民間就活で慣れていたのも特に意識することは変わらず、相手の目を見て笑顔でハキハキと、黙り込む時間の無いように受け答えすることを心がけました。

● 2次試験【政策課題討議試験】

民間就活でもグループディスカッションの経験が無く、公務員試験対策の情報サイトや体験記などを読んで流れだけはイメージして臨みました。本番では個人的に興味深いテーマが出題されましたが、議論では無難なことしか言えず手応えは全くありませんでした。

● 官庁訪問

2次試験が終わってすぐ訪問者カードの作成を始め、先輩に添削をお願いするなどして推敲を重ねました。自分が国家公務員の総合職、その中でも環境省の自然系を志望す

るに至った理由について、これまでの自分自身の選択や考えに対して、根拠となる経験などを交えつつ「なぜその選択をしたのか、なぜそう考えたのか」を逐一明確にしていき、説明に一貫性を持たせました。

本番は第1・第2クール共に1日目に訪問しました。民間企業の選考プロセスも既に進んでいたもので、先述の志望理由の説明に加えてなぜ民間ではなく行政なのかという点についてもしっかりと説明できるよう準備して臨みました。想定質問とそれに対する回答もある程度考えていましたが、用意した内容を話すというよりもその場で投げかけられた質問に対して素直な考えを自分の言葉で話すことを心がけました。

当日はイメージしていたよりも拘束時間が短く、その分面接の時間や回数が限られており毎回あっという間に終わる感覚だったので、一回一回の面接を大事にしつつ、慎重になりすぎることなく自分の伝えたい内容は端的に纏めて伝えることをもっと意識すべきだったなと思います。

● 内定までの過ごし方、心がけたこと

試験でも面接でも、実力通りのパフォーマンスを発揮するにはまず身体のコンドィションを万全に整えることが重要だと思います。日頃の体調管理はもちろん、前夜は十分に睡眠をとり、当日は朝食をしっかりと食べて臨んだのは実際とても効果的でした。

また、自分が心がけていたのは、「もし選考から漏れたとしてもそれは縁が無かった、自分に向いていなかっただけ」という心構えで臨み、手応えがなくても必要以上に落ち込まないようにすることです。大事な試験や面接の前に緊張するのは当たり前のことですし、終わったことについてあれこれ思い悩んでも仕方がないので、始まる前には謙虚さは持ちつつも弱気にならないように「やれるだけのことはやった」と開き直り、終わったら次に生かせるように反省した上ですぐ気持ちを切り替えていました。

● アドバイス、メッセージ

今は情報が簡単に手に入る時代になり、就職活動もますます情報戦の様相を呈していると感じました。特に国家公務員は内定が出るまでの期間が比較的長く、その途中で様々な情報に触れて焦りや迷いが生じることもあると思います。そんな時でも、目先の情報や小手先のテクニックに安易に飛びつかずに自分の軸となる考え・意志を固めて地道に努力し、他人との比較ではなく本当に自分がやりたいことは何なのか、本当に自分に向いていると思うことは何なのかを素直に突き詰めていけば、自ずと道は見えてくるのではないかと思います。これを読んでもくださった方々が最終的に納得できる選択をする一助になれば幸いです。

Fさん

【最終学歴】 修士修了見込み

【学年/専攻分野】 修士2年／生態環境物理学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2024

【参加した説明会、インターン等】

オンライン説明会、OB訪問

【併願先】 国土地理院、地方公務員



(1) 志望動機

国立公園の管理体制の充実化に貢献し公園の適正利用を推進することで、地域社会の発展を目指して本職を志望しました。

これまで登山活動などを通じて自然に親しんできました。一方で、北海道内の山を登った際に、登山道の荒廃や山小屋の老朽化を目の当たりにしました。また、山小屋や登山道の管理を実際に行った際には、資金面や人材面の負担の大きさを実感し、これが管理の充実化における課題であると考え、こうした問題の解決に貢献したいと思うようになりました。その中で、馴染み深い日高山脈の国立公園化をきっかけに、国立公園に現場と本省の双方の立場から携わることが出来る本職と出会い、志望するに至りました。

(2) 体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEICの勉強など)

レンジャーを本格的に目指し始めたのは秋冬インターンを終えた後でした。また、1次試験の前日に学会発表があり、その準備との両立が難しく、人事院試験対策を始めたのは1次試験の2週間前でした。勉強を始めてからは他のことに一切手を付けず、試験対策に集中しました。また、TOEICのスコアは大学院進学の際に取得したものを利用しました。

● 1次試験【基礎能力試験】

事前に大学のキャリアセンターで入手した過去問と友人から借りた公務員試験対策テキストで、出題数の多い数的処理と文章理解・判断推理を重点的に対策しました。過去問は5年分解き、時間配分の感覚を養いました。その他の分野の対策は、前日に「速攻の時事」を読んだ程度で、ほとんど対策しませんでした。

● 1 次試験【専門多岐選択式試験】

最新年度の過去問から順に解いていき、最終的には 4-5 年分解きました。その際、逐一各選択肢の内容を「森林・林業白書」と「環境白書」、「森林・林業実務必携」や Web 記事等で確認しました。2-3 年分の試験問題に目を通すと、頻出テーマが分かり、それらの理解を重点的に進めました。古い年度の過去問は情報が古いため、解く重要性は低く、最新の白書を読み込む方が有効だと感じました。

● 2 次試験【専門記述式試験】

1 次試験合格後に対策を始めました。1 次試験同様に頻出テーマの理解を深めるのと同時に、制限時間内に解答を終えることを目指して実践的な練習を重視しました。多くの問題は 1 次試験の頻出テーマと重なるため、最初は準備に時間がかからないと思っていました。しかし、実際に記述してみると、自分の理解が浅いことが明確になり、結局直前まで試験対策に取り組む羽目になりました。時間に余裕があれば、1 次試験の準備と並行して 2 次試験の準備を行うと、頻出テーマを深く理解し頭の中で整理するのに役立つと思います。

● 2 次試験【人物試験】

専門記述式試験終了後に対策を始めました。それまで面接機会が少なかったので、大学のキャリアセンターや友人に面接カードの添削と面接練習を手伝っていただきました。面接カードは文字数が比較的少なめで、面接自体の時間も短いので、質問を想定しやすいと思います。実際の面接でも特に変わった質問はなかったので、お勧めの対策です。

● 2 次試験【政策課題討議試験】

専門記述式試験終了後に大学キャリアセンター主催の模擬試験に 2,3 度参加しました。試験の流れやコツなど学ぶことが多かったので、可能であれば実践的な練習をしておくことをお勧めします。

● 官庁訪問

2 次試験終了後に対策を始めました。訪問者カードを作成する際、志望動機を実現したいこととそれまでの実体験に基づく内容にし、またそれが環境省の政策とどのように結びついているのかを明確に盛り込むことを重視しました。作成の中でしっかり志望動機を整理できたことが面接にもかなり役立ったかと思います。その後は、友人に添削や実践的な練習を手伝ってもらいつつ、想定質問への対策や逆質問の準備を行いました。官庁訪問は訪問者カードの提出が遅れ、第 1 クールの 2 日目からと始まりました。面接直前は今までにないほど緊張していましたが、開始後は面接官の方が話しやすい雰囲気を作ってくださり、ある程度リラックスして面接することができました。言葉が多少詰

まる場面も時々ありましたが、面接官との対話を意識して笑顔で明るく返答することを心掛けました。

● 内定までの過ごし方、心がけたこと

就活は人生の中でも特に心への負担が大きかったと感じます。自分の中で様々な感情をため込みすぎないように友人や家族に自分の悩みを少しでも打ち明けて、不安や悩みを解消していました。打ち明けられない時でも、ただ一緒にご飯を食べたり、息抜きしたりすることで、気持ちをリフレッシュし、前向きな気持ちを保ち続けるように意識しました。

● アドバイス、メッセージ

私が本職を目指し始めたのは年を明けてからでした。それまでは民間のある業界への志望を決めていたのですが、秋冬インターンを終え、本選考の準備を進める中で、以前から感じていた？自分の中の違和感が強くなり、その業界を目指すことをきっぱりとやめました。その後、友人のアドバイスやOBの方との縁もあって、頭の片隅にあった本職への志望を決めました。結果として、私は自分自身が納得できる形で本職を志望したことが、内定に繋がったのではないかと感じています。中途半端な志望動機ではなく、心の内から自然に湧き上がった志望動機を大切にすることが、最終的に良い結果を生んだと思います。皆さんの中には、志望し始める時期が遅くて半分諦めている方もいるかもしれませんが、もし本職への熱意があるのであれば、ぜひ自分の気持ちを大事にして前向きに本職を目指していただきたいなと思います。

Gさん

【最終学歴】 修士課程修了→民間企業（人事職）→高校教諭（理科）

【学年/専攻分野】

既卒/水圏生態化学（学部）・化学海洋学（修士）

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2024

【参加した説明会、インターン等】

自然系説明会（8回）、理工系説明会（3回）

合同説明会（1回）、オンライン職員訪問（1回）、職員訪問（1回）

【併願先】 国家一般職



（１）志望動機

現在の勤務先である高校には、全国に２カ所しかない学校施設の水族館があり、来館者に生命の多様性や外来種問題への関心を持ってもらうことを目的とし、その運営に科学部顧問として携わっています。その活動を通じ、自然環境に興味を持ってもらう場の重要性を学んだことで、環境問題の根本的解決に向けて、よりスケールの大きい国立公園を舞台に活躍できるレンジャーを目指すようになりました。

（２）体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEICの勉強など)

現職があり、「森林・自然環境」を学んだことがなく、全て独学の私でも内定をいただくことができたので、特に社会人からレンジャーを目指している方の励みになれば幸いです。

● １次試験【基礎能力試験】

年明けから本格的に始めました。『新スーパー過去問ゼミ』の「文章理解・資料解釈」「判断推理」「数的処理」を一周して、得点源を確保しました。他の分野は対策できず、過去問もほぼ解けていません。試験時間は余裕がなく、問題の取捨選択が必要であると感じました。

● 1 次試験【専門多岐選択式試験】

基礎能力試験対策と並行して始めましたが、勉強時間をあまり確保できませんでした。『森林・林業白書』を一周したのみで、過去問もほぼ解けておらず、本番を迎えることになりました。アドバイスできる立場ではありませんが、試験時間は余裕があり、理科全般の知識で解ける問題もあるので、文章を丁寧に読み取り、違和感を見抜くことが大切だと思いました。

● 2 次試験【専門記述式試験】

1 次試験終了後に対策を始めました。1 次試験の反省を踏まえ、専門記述式試験までの約 1 ヶ月は怒涛の対策をしました。「自然環境・公園緑地」の科目を選択しましたが、問題内容の差が年によって非常に大きかったので、過去問 10 年分を解き、出題範囲の把握に努めました。『環境省 HP』を参考に模範解答を作成し、分からない用語は全て調べ、まとめる作業をしました。加えて、自然環境に関するトレンドを押さえることが肝要であると思います。ここでの踏ん張りが、官庁訪問までの対策にも繋がったと強く感じています。試験時間は余裕がなく、時間いっぱいまでペンを走らせ続けました。

● 2 次試験【人物試験】

専門記述式試験終了後に対策を始めました。面接カードは短い文章でまとめないといけないため、キーワードの取捨選択が重要です。完成後に想定問答集を作成し、面接のシミュレーションをしました。本番の質問はカードに沿って行われましたが、予想以上に深掘りをされたため、5W1Hを意識して答えられるように、十分に対策すべきだと思います。

● 2 次試験【政策課題討議試験】

人物試験対策の隙間時間に並行して始めました。受験経験がある友人からの情報とネット検索を頼りに、どのような流れで進むのかを把握し、イメージトレーニングをしました。試験は、資料読み取り+レジュメ作成の時間がとても短く、レジュメをもとに討議が行われるため、自分なりのレジュメのまとめ方を必ず押さえた上で、本番を迎えるべきだと思います。

● 官庁訪問

2 次試験終了後に対策を始めました。訪問者カードは一字一句にまで気をかけて作成しました。このカードの出来が、内定を左右したと感じています。完成後は、レンジャーに限らない環境省の取り組みを調べ尽くし、“自分ならどうするか”という思いを馳せるようにしました。本番の質問は、やはりカードに沿って行われたため、カードに自信があれば安心して臨めると思います。ポイントとしては、「どんなことをしたか」とい

う”結果”以上に、「なぜその行動をとったのか」という”過程”を見られていると感じたので、答え方としてそこを意識することが大切であると思いました。

● 内定までの過ごし方、心がけたこと

説明会には可能な限り参加し、職員訪問の機会も利用しました。そこで伺ったお話がモチベーションとなり、内定へと繋がったと思います。ぜひ、積極的な活用をお勧めします。また、2次試験の人物試験・政策課題討議試験や官庁訪問は平日に行われたため、有給休暇を取得できるように、スケジュール管理の徹底を心がけていました。

● アドバイス、メッセージ

試験対策に正解はありませんので、この「内定者の声」を参考にして、自分なりの答えを探していただくきっかけになれば幸いです。周りを気にしすぎず、過去に捉われず、皆様が経験してきたことを踏まえた強い熱意があるかどうか、最後の鍵になると思います。

苦しいときこそ笑顔を忘れずに、体調に気をつけて、最後まで諦めず頑張ってください！

Hさん

【最終学歴】 修士課程修了見込み

【学年/専攻分野】 修士2年/動物生態学

【試験区分】 化学・生物・薬学

【試験年度】 2022

【参加した説明会、インターン等】

サマートライアル、各種オンライン説明会

【併願先】 農林水産省 民間IT企業



(1) 志望動機

みんなが自然の中で遊ぶ楽しさ・喜びを享受し続けられるようにするため。幼少期から自然の中で遊んだ経験や、クライミングをする中で自然の中で過ごす楽しさを知りました。また、国内外を旅行したことで日本の景観のすばらしさを認識しました。

しかし、行けば楽しめるのに自然の中に出かけていく習慣がない人が多くいること、すばらしさが十分に認知されていない環境が多くあること、不適切な利用により価値を減じている地域があることに気づきました。そこで人々に自然の中で過ごすすばらしさを伝え、幸せを増やしたいと思うとともに、環境教育や規制、適切な管理によって素晴らしい自然環境を変わず次世代に引き継ぎたいと思い環境省を志望しました。

(2) 体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEICの勉強など)

試験勉強において一番良かったことは、院試の年に公務員試験を受けたことです。おかげで重複する範囲の勉強が一度で済み、時間に余裕のある3回生の時に試験に合格しました。院に進んだ後の対策は官庁訪問だけでいいので、研究や民間就活、私生活との両立の難易度がグッと下がります(今年受験の人が一次試験を受けているときに私は5週間の海外遠征に行っていました)。大学入試の時のことをどれだけ覚えているかを思い返してもらえばわかりやすいと思いますが、院試後の二年で院試勉強の時にした内容は結構忘れます。専門分野がある程度公務員試験とかぶっている人は、院試のついでに公務員試験を受けることを強くすすめます。今は制度も変わって、ストレートで行けば博士を出た後でも名簿が有効だと思うので、進学するつもりの人でも公務員になる可能性がある人は時間があるうちに受けたほうがいいと思います。

● 英語の対策

(コロナでなくなった)留学の出願の際に TOEFL を受けていたのでこれを活用しました。市販の問題集やネット上にある模擬問題で対策しました。

3 回生後期に留学に行く予定だったのでそれに向けて英語に力を入れていたことと、講義の予習でそれなりの量の英文を毎週読んでいたので基礎能力試験でも得点源(と時間の余裕)になったと思います。特に公務員試験に向けて英語の勉強はしていません。

● 試験区分選択について

生物が専門だったので化学・生物・薬学を選択しました。生態学は自分の専門で、遺伝学も教科書を読んである程度理解できるレベルだったので専門記述はよかったのですが、専門多岐の科目選択で困りました。生物のミクロの分野は生物基礎以降触れておらず、薬学は何も学んだことがなく、化学も大学入学以降は何もやっていません。仕方がないので高校化学と高校物理で乗り切りました。

過去の採用実績で、森林・自然環境で受けている人が多かったので森林・自然環境も少し見てみたのですが、聞いたことがない科目名が多く、なんとなく農学部っぽい科目名だったのでやめました。念のため内定者の声執筆にあたって森林・自然環境の問題を見てみたら環境省について学ぶ中で知ったことが多く聞かれていて、意外とできそうでした。これから試験区分を決める人はちゃんと中身を見ることをお勧めします。「試験区分で差はありません」と採用のサイトで言っているので得意そうな試験区分で受ければいいです。私は専門を活かしたので化学・生物・薬学を選んだことに後悔はありませんが、特に差がなければ森林・自然環境を選択した方がいいかもしれません。森林・自然環境の試験勉強は官庁訪問の対策にもなる気がします。

● 1 次試験【基礎能力試験】

基礎能力試験は、大学入試センター試験(共通一次)のようなものだったので特に困ることはなかった気がします(あまり覚えていません)。

頭がかなり鈍っていたので高校時代の問題集を引っ張り出して思い出したり、過去問を解いて記憶を呼び起こすなどの対策をしました。社会などは問題数も少なくわからないものはわからないし、何の勉強をしたらいいのかもわからなかったので見捨てました。数的などセンターにはないような形式の問題もありますが、元来こういう問題が得意だったのと、中学受験の際に対策済みなのでこれといった対策はしませんでした。気が向いたときに過去問の問題を解いて頭の活性化と問題への順応を行いました(生まれつきこういう問題が好きなので気が向きすぎて困りました)。

● 1 次試験【専門多岐選択式試験】

公務員試験と院試で内容が重複しているところを 3 回生の夏ごろから勉強をしていました。夏から秋ごろにかけてペンギン表紙の行動生態学と生態学入門かなにか生態学の

教科書を通して読みました。冬ごろに大学の図書館で借りてきた遺伝学の本を読みしました。

3 回生の後期に一般教養の基礎物理化学の授業を受けましたが、よくわかりませんでした。また、サークルの先輩に教科書を譲ってもらって読みましたがこれもあまり理解できませんでした。結局あまり解けなかったので化学は捨ててもよかったかもしれません。

ひとしきりインプットした後、大学のキャリアセンターで入手した過去問を一通り解きました。おそらく 10 年分程解いたと思います。問題をよく見てみると未修の分野でも、高校物化の知識で解けるものや、統計など分野横断的なものなど解けそうな問題もあるので、数学・物理、遺伝学・進化学、生態学・系統分類学以外は問題をざっと見て解けそうなものを解いていました。基礎能力試験と違い試験時間に余裕があるので問題を選ぶ時間があります。6 科目選択した 36 問のうち 6 問は解かないので多少の余裕があるのと、合格点もそんなに高くないので捨て科目があっても大丈夫です。本番では前述の 3 分野で約 7 割、残りの 3 分野(基礎物理化学・基礎無機化学、物理化学・無機化学、発生生物学・生理学)で約 3 割の得点でした。そもそも分子生物学や細胞生物学などミクロ系の生物の知識があればこんな思いはしないですむと思います。

● 2 次試験【専門記述式試験】

専門記述で改めて勉強することはありませんでした。大学の講義や一次試験の勉強で学んだことを発揮する感じです。一応過去問は 10 年分ほど解き、知識の穴をつぶしていきました。

専門記述は正解が公開されておらず、非公式のものを探しても正解を入手できなかったのであってかあってないかの判断はあきらめて、わかったかわからなかったかで判断していました。わからなかったものは教科書などで調べてノートにまとめていました。このノートは試験直前に見直すのに役に立った気がします。

● 2 次試験【政策論文試験】

ほぼ対策していません。過去問を数年分解いてみたのと、対策本を読みました(試験当日の昼休みにやっと読み終わった)。大学の Writing の授業や TOEFL の Writing 対策の時に学んだ英語の文章の書きかたが役に立ちました(試験は日本語です)。

当日は紙にペンで文字をたくさん書かないといけなかったので過去問は自筆で解くことをお勧めします。

● 2 次試験【人物試験】

筆記試験の日に面接の日程を渡されてからようやく面接カードを書き始めました。特に添削などはしてもらっていません。

一応面接の定番質問に対する答えは準備していましたが、面接練習を一度もしていなかったうえ、就活をしていなかったので自己分析などは何もしておらず、公務員になり

たい強い思いがあって試験を受けたわけではなかったので深堀されるとあまり答えられなかったような気がします。それでも自然への思いをあきれられるほど熱く語り悪くはない評価をしてもらいました。

● 官庁訪問

訪問者カードは官庁訪問の HP に掲載されている昨年度の様式を活用して春ごろから作成の準備をはじめ、親や友達に添削してもらいました。自分が忘れていたエピソードを出してきてくれたことや、私の拙い文章を何度も添削してわかりやすい文章にしてくれたのが特に役立ったと思います。

申し込み開始直後に申し込みましたが官庁訪問の集合時間がゆっくりめ(当日早朝に出れば間に合う時間)で前日に自分のベッドで寝られるのは助かりました。念のためかなり幅広い想定問答を考えていきましたがそこまでしなくても大丈夫でした。訪問者カードをもとに質問され、あまり突飛なことは聞かれませんでした。それよりは実際に人と話す練習をしていくべきだったと思います。

初日は昼過ぎには面接が終わったので、振り返りと明日の準備をした後はたまたまホテルの近くにあったクライミングジムに行っていました。環境省自然系の官庁訪問はほかの省庁の官庁訪問とは様子が違うので、一般的な官庁訪問の情報は参考になりません(別の省の官庁訪問は丸一日かかりました)。

● 内定までの過ごし方、心がけたと

親せきや友人、恩師など周囲の人に感謝を伝えました。幼いころから自然の中に連れ出し、成長してからも様々な支えてくれた両親には特に感謝していますし、内々定を喜んでくれました。

複数の人に「学生のうちに遊んだほうがいい」と言われたので充実した学生生活を送れるように尽力しています。

24 年ほど過ごした故郷を離れることになるので「いつでもいけるからいいや」と行っていなかった観光地などを訪問したりしています。

● アドバイス、メッセージ

公務員試験はできるだけ早く受けましょう。就活の年の余裕が違います。

Iさん

【最終学歴】 修士課程修了見込み
【学年/専攻分野】 修士2年/生態学
【試験区分】 化学・生物・薬学
【試験年度】 2023
【参加した説明会、インターン等】
夏期インターン(4日間)
【併願先】



国交省、農水省、国土地理院、民間は交通系インフラや自動車メーカー等

(1) 志望動機

保全生態学分野で研究していたため、やることの多くに環境省が関わっており、環境省が自分にとって大変身近であったことが志望のきっかけです。また、近年環境問題は人の移動などに即してグローバル化している部分が多く(地球温暖化や外来種問題など)、他国との協働が必要であると感じていることから、国の代表機関として環境に働きかけられる環境省を志望しました。実際に提出するときはインターンで聞いたことなども加えてもっといい感じに書きました。自然系は、自然や生き物への愛が強い人が多いと思うので、そういう部分が少ない自分は肩身が狭かったのですが特に動機について突っ込まれることはありませんでした。

(2) 体験記

● 全般(勉強方法、勉強スタイル、いつから始めた、TOEICの勉強など)

特にこれといった試験対策をしておらず、勉強について言えることはほとんどありません。TOEICだけは何度でも受けなおせる確約された得点源なので、25点加点をとっておくのがよいと思います。試験対策は一次試験の1ヶ月ぐらいから真面目に取り組みましたが当然時間は足りませんでした。

● 1次試験【基礎能力試験】

スーパー過去問ゼミを使いました。脳トレみたいな問題が多いのですが、数的推理だけは早くて簡単な解き方があり、それを知らないと時間がかかるような問題が多いので一通りのパターン(例題と、よく出るマークがついている問題だけ)を把握するために解きました。自分が直前に始めたからだと思いますが、とても全部をやっている時間はな

かったので、全体からパターンを拾う感じで3割ぐらい解きました。基礎能力試験は専門性がない得意分野と不得意分野がはっきり分かれる内容だと思うので、中身を見てみて、自分で対策が必要だと思う分野をやるのがいいと思います。個人的には、数的推理→クセがあるので対策必要だが知識問題ではないので得点源、判断推理と文章理解・資料解釈→得意分野なので対策不要で得点源、自然科学→得意分野だが一部復習が必要、人文科学と社会科学→苦手分野な上に対策に時間が必要なので今回は非得点源、として得点できそうなものから優先順位をつけて対策しました。1分野からそんなに問題数が多く出るわけではないので、時間や労力がかかる分野を無理に対策しようとするより、確実な得点源を固めるのが自分のやり方でした。

● 1次試験【専門多岐選択式試験】

特に対策・過去問などはしませんでした。自分の専門は生物学なので解答できそうな科目は必然的に⑪-⑯になりました。そこから5-6題選んで30問解くということだったので、当日に問題を見て一番得点が高くなりそうな組み合わせで解答しました。5題に絞って対策していても問題との相性が悪いこともあると思うので、なるべく全般的に対策していくのがよいと思います。大学や大学院で、遺伝学概論や生態学概論などをとっていましたが、それらがよく理解できていれば困ることはないようなオーソドックスな問題だったと思います。

● 2次試験【専門記述式試験】

専門記述は付け焼刃でどうにかなるものでもないと思うので特に対策はしませんでした。一応、キャンベル生物学を見て自分の専門で知らない概念や研究手法があれば大まかな説明を読みました。あと、官報に試験専門委員の所属と氏名が出ているので、新しく加わった専門委員の専門分野をチェックしました。研究手法などについては、古い教科書だけではなく新しいものも見ておいた方がいいかもしれません。

● 2次試験【人物試験】

これも特に対策はしませんでした。

● 2次試験【政策論文】

これについては正直よく覚えていません…。対策はしていませんでしたが、専門的なことは聞かれないので自分の考えをまとめて書くことができれば大丈夫だと思います。自分の考えだけで論じすぎない(客観的な社会通念や政策の視点を入れる)ことと、一般的になりすぎない(一般論だけでなく自分の考えを入れる)ことを両立するとよいと思います。

● 官庁訪問

研究が忙しい時期だったので第1クールはオンラインで参加しました。また、最初に希望の日程を(1日目→2日目→3日目)で記入したところ、2日目の訪問になりましたので初日の訪問ではありませんでした(第一志望省庁には初日に行かないと落ちるという噂がありますがそんなことはありません)。希望順としては環境省、国交省、農水省でしたが、国交省、環境省、農水省の順での訪問になりました。基本的には訪問者カードに沿った質問が多かったです。自分がほかに環境系の企業を受けていなかった(乗り物が好きなのでそういう企業が多かった)ので、就活の軸は何度か聞かれました。

● 内定までの過ごし方、心がけたこと

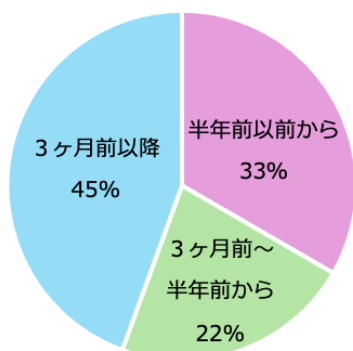
官庁訪問が終わった後は、就活で後回しにしていた修論や投稿論文の執筆などで忙しくしていました。あとは学生生活最後の時間を楽しんでいます。入省したら役に立つだろうという新聞記事や書籍が目に残ることが多くなりました。

● アドバイス、メッセージ

これをすれば受かる、これをしないと受からない、ということはありませんのであまり人の言うことを真に受け過ぎず自分に合ったやり方で頑張ってください。もちろん事前に知っておくことで対策可能な傾向などはあると思うので、そういうのをうまく利用するとよいと思います。チャンスが増えるのと場慣れができると思うので、受けられる試験はすべて受けておくことをお勧めします。また、私は省庁の雰囲気なども重視していたので、同じような方はインターンにも参加してみるとよいと思います。正直最後まで他省庁と迷っていましたが、省庁ごとのカラーもかなり判断に影響したと思います。

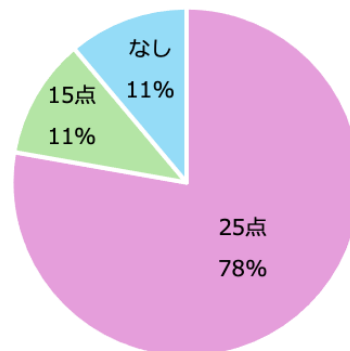
内定者による内定者アンケート

Q1. 公務員試験の勉強開始時期は？



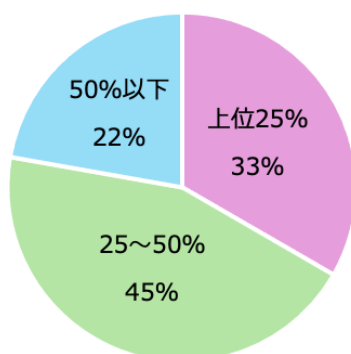
半数以上の人々が3ヶ月前には勉強を始めていました。

Q2. 外部試験による英語加点は？



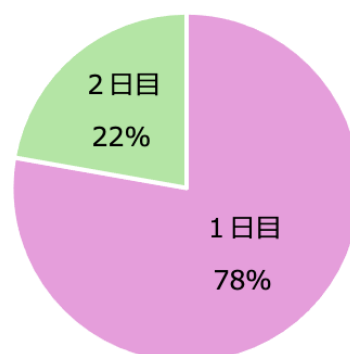
英語加点はほとんどの人が利用していました。受験してから5年以内の試験のスコアを利用できるので、早めの受験がおすすめです。

Q3. 試験の席次は？



席次によらず、人物重視の採用で様々な人が集まっていることが表れているのではないのでしょうか。

Q4. 官庁訪問は何日目？



今年度の内定者は1日目の訪問が多かったようです。

Q5. 併願していた省庁は？（複数回答）

林野庁：3名 農林水産省：2名 国土交通省：2名 経済産業省：1名
なし：3名

Q6. 環境省を知るために行ったこと・参加したイベントは？

- オンライン説明会
- OB/OG 訪問
- 本省インターンシップ
- 地方事務所やビジターセンターでのインターンシップ
- 公務研究セミナー
- 霞が関 OPEN セミ
- 本府省合同業務説明会
- 1Day 職場訪問・仕事体験
- 環境省スマートライアル
- 国立公園を訪れる
- レンジャーの方が出演している YouTube 動画の視聴
- 白書、環境省ホームページを読む

（下線は複数名の回答）

オンラインや霞が関だけでなく
地方事務所や国立公園で開催さ
れるイベントもあるので、積極
的に参加してみてください！

Q7. Q6 以外で、就活でやって良かったことは？

1. 試験対策

- 公務員試験を大学院入試の時に受験した
- 大学のキャリアセンターでの試験対策
- TOEIC で取れるだけのスコアを取っておく

2. 面接対策

- 友人に訪問者カードの添削や面接練習をしてもらった
- 民間就活で場数を踏んで面接に慣れた
- ガクチカを頑張った（大学の部活動、ボランティア、地域就労体験など）
- 自然環境に関するニュースや新聞をチェックした
- 国内外のニュースをチェックし、専門分野以外の情報を集めた

3. その他

- 民間企業の説明会やインターンにも数多く参加し、自分の気持ちを再認識した
- NPO でのインターンシップや民間就活で様々な働き方を知った

- オンラインのイベントだけでなく本省で対面開催される説明会やイベントにも参加し、職場の雰囲気や働いている職員の方々に刺激を受けてモチベーションを高めた
- 専門分野だけでなく他学部履修で視野を広げた
- まともな証明写真を撮ってもらう

Q8. 就活で不安だったこと、悩み事は？

- 仕事内容や待遇(給与や福利厚生)など何を重視して就職すべきか
- 研究を諦めていいのか
- 当初は博士進学を検討していたため、指導教官に就活を応援してもらえるのか(伝えたら全面的にサポートしてくれた)
- レンジャーの採用枠が狭いこと
- 既卒だったこと
- 他分野からの受験になったこと
- 東京に住むことへの不安
- 環境省で働いている職員の方がとても聡明に見えて、その方々と凡庸な自分が同じ職場で働けるとは思えず不安だった

民間就活について

- 民間就活をするかどうか、併願先をどこにするか、両立できるか
- 自分の興味が薄い業界や企業を面接練習のためだけに受けるべきか

Q9. 就活での失敗談は？

- 体調が万全でない状態で試験を受けた
- 文章を書くのが苦手なのに二次試験までに十分な対策ができなかった
- 英語加点の存在に気づくのが遅く、年明けに TOEIC を受験することになり試験対策が遅れた
- スーツを用意できずブレザーを着用して人事院面接に臨んだが、自分以外の全員がスーツだった
- 研究を疎かにしてしまった
- 官庁訪問(他省庁)の面接で良い質問をしようとして空回りした

志望開始時期について

- 秋のインターンシップを終えて急遽民間就活からレンジャー志望に変えたため、準備期間が短くなった

- まだ就職する気がない段階で公務員試験を受けたため、人事院面接でどのような公務員になりたいか聞かれて困った
- 本省インターンシップに参加した時点では進路に悩んでいたため参加の意気込みがやや弱く、職員の方々の印象に残れていないのではないかと考えた

Q10. 就活でやっておけば良かったと思うことは？

- 最初から志望業界・企業を決め打ちせずに、色々な業界に興味を持ってみる
- 他の国家公務員志望者を集めて勉強会や情報共有をする
- 説明会等に参加する前に自分の考えや疑問点をしっかりと整理して臨み、分からないことをなるべく早く解決する
- グループディスカッションの練習
- TOEIC の受験
- 関心を持って近くの国立公園を訪れる
- SPI の勉強

Q11. 気分転換の方法は？

- 運動・散歩・外で遊ぶ・体を動かす・自然の中を歩く
- 旅行・ドライブ
- 食事
- 友人と話す
- アニメ・漫画・本・映画などを楽しむ
- 研究活動
- 『内定者の声』を読む
- 国立公園の YouTube 動画を視聴する
- 点数が上がっていく様子やこれまでの試験結果と比較して自分がどれくらいの位置にいるかを定期的に確認し、自身の成長や弱点をモニタリングする

アウトドア派が多いですが、それぞれ自分に合った方法で息抜きをしていたようです。

Q12. 面接・官庁訪問で難しかった質問は？

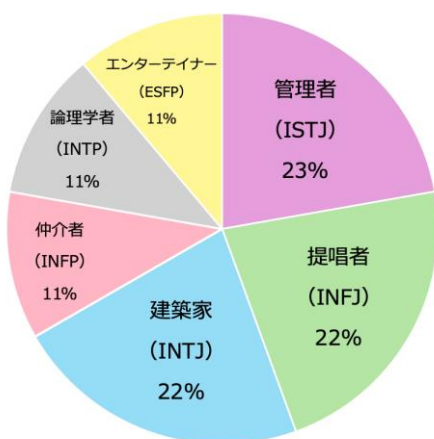
- 環境省の取組みの問題点を挙げるとしたら？
- レンジャーとして、反対意見を持つ人や立場の違う人とどのように接するか？
- 涙が出るほど悔しかった経験、ガッツポーズするほど嬉しかった経験は？
- やりたいことを聞かれ、用意していた内容を答えた後に間髪入れずに他には？と聞かれてすごく焦った
- 霞が関はブラックと言われているが、それでもここで働きたい理由は？

- 行政と民間から内定をもらい、仕事内容は同じで民間の方が給料が高い場合に行政を選びますか？

Q13. 面接等で印象に残った職員の方々の言葉は？

- 自然からのメッセージを読み解く力がとても大事です
- 現場では広い視野を持って地域の想いやあるべき姿を追求する姿勢が求められますが、国全体や自然のことを考えて NO を伝えることも大事になります
- 環境問題の解決とは、答えのない問いに多様な立場の関係者と答えを出していくことである
- 様々な体験をしてきたあなただからこそ、その言葉に説得力を感じています
- 面接前に「リラックスしてね」と声をかけてくださったのが印象的でした
- 単なる挨拶かもしれませんが、官庁訪問でやりたいことを伝えた際に「入省できたらぜひ頑張ってください」と応援をしていただき、高いモチベーションを維持し続けることができた
- 内定式の時に、職員の方に「今日から仲間」と言われて泣きそうになった
- 内定式で「皆さんの後ろには入省したくても出来なかった多くの人がいる」という趣旨のことを言われ、改めて気が引き締められました

Q14. MBTI は？



MBTI とは、心理学者カール・ユングの心理学的類型論に基づく性格診断です。アンケートの結果により 16 タイプの性格に分類されます。

受験で使った参考書・資料一覧

太字 : 複数人が使用していたもの
! : 特にオススメしたいもの

➤ 基礎能力試験

! 過去問

! 新スーパー過去問ゼミ (数的推理、判断推理、文章理解・資料解釈) (実務教育出版)

! 国家総合職教養試験過去問 500 (実務教育出版)

! 速攻の時事 (実務教育出版)

・公務員試験 本気で合格! 過去問解きまくり! (実務教育出版)

・大学生協の公務員講座のテキストと問題集

➤ 専門試験

【森林・自然環境】

! 過去問

! 森林・林業白書 (林野庁)

! 環境白書 (環境省)

! 森林・林業実務必携 (朝倉書店)

! 各省庁の HP

・高校地学の教科書や図説

・生物多様性国家戦略 2012~2020

・自然公園の手引き (自然公園財団)

・国立公園 (自然公園財団)

【化学・生物・薬学】

・過去問

・生態学入門 日本生態学会編 (東京化学同人)

・基礎生物学テキストシリーズ 微生物学、遺伝学 (化学同人)

・キャンベル生物学 (丸善出版)

・行動生態学 (共立出版)

・アトキンス物理化学<上・下> (東京化学同人)

・大学の講義資料

➤ 人事院面接

- ・ 公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本（実務教育出版）
- ・ 公務員試験 現職人事が書いた「自己 PR・志望動機・提出書類」の本（実務教育出版）
- ・ 大学キャリアセンターの面接練習を利用

➤ 政策課題討議試験/政策論文試験

- ・ 大学の公務員講座
- ・ 大学キャリアセンターの模擬練習を利用
- ・ 速攻の時事（実務教育出版）
- ・ ネットの情報

➤ 官庁訪問

！ 環境省 HP

！ 環境白書

！ 説明会のパンフレット

- ・ 新聞(紙面や大学のネット上で見られる環境省自然系関連のアーカイブ)
- ・ 国立公園論（南方新社）
- ・ 国立公園（自然公園財団）
- ・ 公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本（実務教育出版）

➤ その他、全期間を通して使用したもの

！ 内定者の声

！ OB 訪問

- ・ 公共政策大学院の他学部履修
- ・ インターン等
- ・ 国家総合職(化学・生物・薬学)試験対策 (<https://kaseiyaku.com/>)

おわりに

「内定者の声」を最後までご覧いただき、ありがとうございます。

本冊子をご覧いただいた皆様の中には、先が見えない不安な気持ちでいる方も多いのではないのでしょうか。私たちもそうでした。レンジャーを志望している方にとって、内定までの道のりは非常に長く険しいものです。プレッシャーで押し潰されてしまいそうになることもあるはずです。そのようなときこそ、今まで経験してきたことは全て無駄ではないと思い直し、自分の人生に折り合いをつけ、自らを奮い立たせることが大切だと思います。

また、内定までの近道はありませんが、内定後のイメージを持ち続けることが、内定への最短ルートではないかと考えます。レンジャーとして働く自分を想像できる人は、きっと内定へと近づくのではないのでしょうか。

最後になりますが、偉大な先輩レンジャーが仰っていた言葉をお借りして、私たちから皆様へエールを送りたいと思います。

『困難なときこそ“前傾姿勢”を忘れず、“メリハリ”をつけて、頑張ってください！』

レンジャーを目指す皆様と共に働ける日を、内定者一同、心待ちにしております。

令和7年度 環境省総合職自然系 内定者一同

